

令和6年度事業報告

I 概要

計量の普及啓発、計量管理の推進、計量の教育・訓練、計量の情報調査・交流、試験・校正及び計量管理受託業務の6事業を中心に事業を実施した。

計量の普及啓発については、計量記念日事業として、全国統一ポスター、広報誌の作成・配布及び計量啓発標語、何でもはかってみようコンテストの募集・表彰を行い、記念日全国大会を開催した。

計量管理の推進については、自動はかりの計量管理に関する調査・検討及び計量管理システムのグローバル化についての調査・研究を実施した。

計量の教育・訓練については、各分野における計量担当者を対象とした各種講習会や計量士国家試験対策講習会及び中小企業向け測定基礎教育研修を実施した。

計量の情報調査・交流は、計量士部会においては、全国計量士大会を開催し、意見交換を行った。また、認定事業者部会においては、全体会議等を企画・開催した。

日本郵政グループ計量管理受託業務については、令和6年4月から令和7年3月までの受託期間、郵便局等のはかりの定期検査及び適正計量管理主任指導等の業務を実施した。また、受託体制整備のため計量管理講習会を合計3回対面で行い登録計量士とした。

試験・校正センターにおいては、力計、一軸試験機、温度計、質量（分銅・おもり）等の校正・検査事業を推進するとともに、標準維持業務及び一軸試験機の現地監査等を実施した。

II 会員の状況（令和7年3月31日現在）

種別	令和5年度会員数	令和6年度会員数	増減
第1種正会員	79	77	△2
第2種正会員	90	88	△2
賛助会員	36	34	△2
計	205	199	△6

(*入会・退会については、9ページ 令和6年度会員の状況 参照)

III 役員の状況（令和7年3月31日現在）

1 役員数

会長 1名、副会長 5名、専務理事 1名、常務理事 2名、理事 28名、
監事 3名 計40名

2 顧問

顧問 1名

IV 会議

1 第13回定時総会 令和6年5月29日 於：ホテルインターコンチネンタル東京ベイ

【議案】

- ・ 令和5年度事業報告について
- ・ 令和5年度決算報告について
- ・ 役員の選任について

【報告事項】

- ・ 令和5年度公益目的支出計画実施報告について
- ・ 令和6年度事業計画及び収支予算について
- ・ その他

2 理事会

第1回 令和6年4月18日 於：主婦会館プラザエフ

- ・ 令和5年度事業報告について
- ・ 令和5年度決算報告について
- ・ 令和5年度公益目的支出計画実施報告について
- ・ 役員の選任について
- ・ 会長表彰候補者選考について
- ・ 第13回定時総会次第について
- ・ その他

第2回 令和6年11月14日 於：ニューオーサカホテル

- ・ 令和6年度中間事業実施状況と今後の事業について
- ・ 委員会、部会の説明及び委員について
- ・ その他

第3回 令和7年3月13日 於：主婦会館プラザエフ

- ・ 令和7年度事業計画(案)について
- ・ 令和7年度収支予算(案)について
- ・ その他

3 監事会 令和6年4月15日 於：日本計量会館

- ・ 令和5年度の理事の職務の執行、事業報告、計算書類等の監査及び令和5年度公益目的支出計画実施報告に関する監査

V 事業概要

1 計量の普及啓発

1. 1 計量記念日関連事業

(1) 組織委員会

6月17日に組織委員会（委員長：鍋島孝敏 日本計量振興協会会長）を開催した。審議の結果、全国大会の日程、場所、全国統一ポスター・広報誌の作成、「計量啓発標語」及び「何でもはかってみようコンテスト」の募集、特別講演、レセプション等の事業実施方針が決定された。

(2) 実行委員会

組織委員会の決定を受け、7月1日に第1回実行委員会（委員長：谷本 淳 日本計量振興協会副会長）を開催し、「すみっこぐらし」をキャラクターとした計量啓発全国統一ポスターデザイン案を決定した。また、広報誌「計量のひろば」の特集テーマ及び特別講演の候補案について討議した。

9月25日に第2回実行委員会を開催し、作成したポスター及び広報誌を確認するとともに、「計量啓発標語」の応募作品950点を厳正に審査した結果、最優秀作品賞1点、優秀作品賞3点、佳作13点を決定した。また、「何でもはかってみようコンテスト」の応募作品12点を厳正に審査した結果、全12点を一次審査通過作品（上位入賞候補）として選定した。

(3) 計量記念日全国大会

11月1日、ホテルインターコンチネンタル東京ベイ（東京）において、経済産業省・計量記念日組織委員会が主催し、計量団体の協賛、協力を得て、計量記念日全国大会を開催した。式典（経済産業省主催）においては、計量関係功労者6名（うち日計振推薦2名）に対する経済産業大臣表彰及び計量制度運営等貢献者14名（うち日計振推薦7名）に対するイノベーション・環境局長表彰が行われた。記念行事（計量記念日組織委員会主催）においては、「計量啓発標語」及び「何でもはかってみようコンテスト」の最優秀作品賞等の発表、組織委員長からの表彰が行われた。引き続き、「私たちはなぜ古代ゲノムを解読するのか？」と題し、東京大学大学院理学系研究科・生物科学専攻教授の太田博樹氏による特別講演が行われた。その後のレセプション（計量記念日組織委員会主催）においては、関係者の連携強化が図られた。

（10～11ページ 令和6年度 経済産業大臣・イノベーション・環境局長表彰受賞者名簿 参照）

(4) 全国統一ポスターの作成・配布

実行委員会において内容、デザイン等を検討し、本年度は「暮らしのすみっこまで、正しい計量を。」を訴求するために、ファミリー層を中心として多くの人気を集めている「すみっこぐらし」をキャラクターに起用した全国統一ポスターを26,000枚作成し、関係各所及び当会会員等へ配布した。

(5) 「計量のひろば」の作成・配布

本年度は、「度量衡の歴史～メートル条約締結から150年～」について特集し、①度量衡とは、②単位の起源、③メートル条約の締結、④メートル条約締結から150年、をイラストや写真を含めて分かりやすく紹介した（(一社)日本計量史学会 溝口義浩氏著）。また、昨年度（令和5年度）の「計量啓発標語」及び「何でもはかってみようコンテスト」の上位受賞作品も併せて紹介した「計量のひろば」No. 67を43,000部作成し、関係各所及び当会会員等へ配布した。

(6) 「計量啓発標語」の募集

関係各所を通じて、標語の募集を行ったところ、全国から950点の応募があった。第2回実行委員会で、最優秀作品賞1点、優秀作品賞3点及び佳作13点を決定し、計量記念日全国大会において、発表、表彰した。最優秀作品賞等は、計量ジャーナル冬号（Vol. 44-4）に掲載した。

(7) 「何でもはかってみようコンテスト」の募集

小学生を対象にした「何でもはかってみようコンテスト」は、東京都、富山県、三重県、滋賀県、大阪府、兵庫県、香川県、及び福岡県の小学校から12点の応募があった。第2回実行委員会で選定された一次審査通過作品12点を10月3日開催の何でもはかってみようコンテスト審査委員会（委員長：本多 敏 慶應義塾大学名誉教授）で厳正に審査した結果、最優秀作品賞1点、優秀作品賞3点及び奨励賞7点を決定した他、本コンテストが20年目を迎えることを記念して、前審査委員長の北森俊行 東京大学名誉教授（令和6年3月10日ご逝去）のお名前を冠した「北森俊行賞」1点を決定し、計量記念日全国大会において、発表、表彰した。最優秀作品賞は、計量ジャーナル冬号（Vol. 44-4）に掲載した。優秀作品賞及び北森俊行賞は、来年度の計量ジャーナル春号以降（Vol. 45-1～）に掲載を予定している。

（12 ページ 令和6年度記念行事受賞作品一覧参照）

1. 2 計量普及

(1) 当会機関誌の発行

① 「計量ジャーナル」

Vol. 44の春号、夏号、秋号、冬号を各々約3千部発行し、会員・行政機関・関係団体等に配布した。

② 「計測標準と計量管理」

Vol. 74の5月号、8月号、11月号、2月号を各々約3千部発行し、会員・行政機関・関係団体等に配布した。一部は有料で頒布している。

(2) 計量士国家試験対策テキスト等の発行

「計量法の概要」（令和6年度版）をはじめ、計量士国家試験準備講習会等において使用する「計量士国家試験全問題と解説」等のテキスト13種類を、編集し、発行した。本テキストは有料で頒布している。

1. 3 中小企業向け測定基礎研修の開催

昨年度に引き続き、地域中小企業技術者向けの、長さ、質量及び温度に関する測定基礎研修会を6府県9箇所で開催した。参加企業は84社、参加者は171名であった。本年度の研修実施状況の報告等を行う中小企業向け測定基礎研修運営委員会（委員長：横田貞一 日本計量振興協会副会長）は、令和7年4月に開催を予定している。

（13 ページ 中小企業向け測定基礎研修開催状況 参照）

2 計量管理の推進

2. 1 自動はかりの計量管理推進委員会

昨年度に引き続きの委員会（委員長：金井一榮 日本計量振興協会副会長）であるが、昨年

度の委員会で検討・作成された「自動捕捉式はかりを使用する事業者向け計量管理規程モデル」を6月に当会 Web 上に公開した。閲覧にはパスワードが必要であるが、本モデルに対するご意見・ご質問等を Web 上のご連絡フォームから受け付けている。なお、ご意見・ご質問等を受け付け中の状況下であることから、本年度については、委員会の開催はなかった。

2. 2 計測管理システムの調査研究委員会 (ISO/JIS Q 10012 調査研究委員会)

昨年度に引き続き、委員会(委員長：中野廣幸 愛知県計量連合会)を2月4日に開催し、ISO 10012:2003 規格(計測マネジメントシステム—測定プロセス及び測定機器の要求事項)の改定草案(DIS)に対する解釈の標準化と共有について、中野委員長から説明の後に質疑応答を行った。次に、改定中及び改定後の本規格の啓蒙ポイントと活動方法について、意見交換を行った。

3 計量の教育・訓練

3. 1 計量管理者養成教育

(1) 第37回 品質管理推進責任者養成コース

指定製造事業者、計量法やISOの認定を受けた事業所の品質管理推進責任者及び予定者を対象にして、6月3日～7日に東京会場(19名)で開催した。

(2) 第20回 ISO/IEC 17025 内部監査員研修

JCSS 校正事業者の内部監査員及び予定者を対象にして、12月5日、6日に東京会場(10名)で開催した。

3. 2 計量担当者教育

(1) 第34回 計量管理技術基礎講座

ISO 9000 シリーズで要求されている計量計測分野に従事する担当要員を対象にして、11月12日、13日に東京会場(15名)で開催した。

3. 3 計量士の育成

(1) 計量士国家試験準備講習会

第75回計量士国家試験は、12月10日に行われた。本講習会は、国家試験の一般計量士及び環境計量士(濃度関係)の受験予定者等を対象にして、7月2日～5日に東京会場(41名)で、また、7月24日～27日に大阪会場(69名)で開催した。

(2) 計量士国家試験直前対策講習会

本講習会は、国家試験実施前の10月4日、5日に大阪会場(50名)で、また、10月15日～17日に東京会場(53名)で、国家試験の合格率を高めるため、過去問題を中心とした講習内容で開催した。

3. 4 計測器校正技術者の研修講座

計測器の校正技術者として必須な基本知識・技術を一通り習得し、今後のより専門的な校正業務に生かしていただくための講義・演習からなる第16回計測器構成技術者研修講座プログラムを、8月22日、23日に大阪会場(14名)で開催した。

3. 5 計量士の育成・確保のための取り組み

若手計量士の育成に関して、令和6年度からの指定定期検査機関職員についての教習受講料の省令改正を受けて各地区の指定定期検査機関に計量教習受講を促した。

3. 6 計量制度(政省令)改正に対応した今後の取り組み

(1) 自動はかりの検定制度への対応に関して、指定検定機関との情報交換を実施し、検定対象となる自動捕捉式はかりの予測台数、検定を実施する計量士の必要人数などを地区計量団体に情報発信した。

(2) 計量士を対象とした自動はかりの技術講習会

< 指定検定機関の計量士養成コース >

自動はかりの技術講習会は、指定検定機関において“検定を実施する者”のうち、雇用形態が臨時社員の計量士が受講すべき講習として示された、「指定検定機関に関係する法規並びに検定対象とする特定計量器の構造、技術基準及び検定の実務に係る演習を内容とすること」に対応した研修講座として実施している。本年度は、次のとおり2回開催した。

- ① 第1回：10月28日（月）日本計量会館 受講者 24名
 - ② 第2回：3月7日（金）岡山市「第一セントラルビル1号館」 受講者 25名
- 講座カリキュラムの概要は、次のとおり。
- 1 計量法における検定制度 2 指定検定機関制度 3 検定に携わる計量士の資質
 - 4 質量計の検定の技術基準（非自動はかり、自動はかり）
 - 5 自動捕捉式はかりの検定 6 演習／システム化による検定データ管理・結果の評価
 - 7 理解度チェック

4 計量の情報調査・交流

4. 1 計量士交流会

- (1) 計量士部会（部会長：金井一榮 日本計量振興協会副会長）

計量士部会は、計量士技術講習会、全国計量士大会の開催と運営等について審議するため、8月1日（木）、9月17日（火）、及び10月29日（火）の3回開催した。

- (2) 第23回全国計量士大会

本年度は、2025年2月28日（金）に、「ホテル東京ガーデンパレス」（東京都文京区湯島 1-7-5 御茶ノ水駅下車 徒歩5分）で開催した。メインテーマは「計量業務の効率化と拡大Ⅱ」と題して、令和6年4月1日から検定が義務付けられた自動捕捉式はかりの全国の進捗状況や効率化の具体例、製薬企業での“計量管理”の取り組みと次世代の計量士育成、及び県域を越えた計量士の連携によってもたらされるメリットについて、3名の計量士から発表があり、その後意見交換を行った。参加者 137名

4. 2 校正事業者（認定事業者）交流

- (1) 校正事業者部会（部会長：田中 充 日本計量振興協会副会長）

計測器校正技術者研修講座、運営委員会、全体会議を開催するとともに、インターメジャー、計測標準フォーラム講演会等の校正事業者交流活動を実施した。

- (3) インターメジャーへの参画

隔年開催のインターメジャー2024が、9月18日～20日に東京ビックサイトで開催され、部会員の8校正事業者について、JCSS 校正サービス事業内容を展示した。

- (4) 計測標準フォーラム講演会

計測標準フォーラム第22回講演会（テーマ：GXにおける計量標準・計測技術の活用）が、9月19日に東京ビックサイトで開催され、本フォーラムの構成団体として開催に参画した。

- (5) 認定事業者部会運営委員会

1月30日に運営委員会を開催し、JCSS等の動向、第16回計測器校正技術者研修講座の実施状況、インターメジャー2024の展示状況、及び全体会議次第（案）について報告、討議を行った。

- (6) 認定事業者部会全体会議

2月27日に全体会議を開催し、日本計量振興協会の事業実施について、太陽電池技術の動向と太陽電池性能評価技術開発への取り組み及びJCSS等の動向について、各報告・講演の後、質疑応答を行った、引き続き企業におけるJCSS 校正事業の活動事例として、アズビル(株)及び(株)大手技研の2社から各発表の後、質疑応答を行った。部会員ら23名が参加した。

4. 3 国際交流

- (1) 「日本・韓国・中国計量測定協力セミナー」

コロナ禍の影響を受けて開催が延期されていた第13回日韓中計量測定協力セミナーが、約5年振りに韓国ソウル特別市で開催され、当会から2名が参加した。参加報告は、計量ジャーナル冬号（Vol. 44-4）に掲載した。

- (2) ISO 10012 規格の普及・活用や改定等に関して、韓国計量測定協会（KASTO）との協力関係を昨年に引き続き継続した。

4. 4 地区計量団体連絡会議

(1) 地区計量団体連絡協議会への参画

全国6地区ブロックで開催される地区計量連絡協議会は、本年度の開催は以下のとおり。

- ・7月4日(木) 中部7県計量協議会 三重県四日市(プラトンホテル四日市)
- ・7月18日(木) 九州計量協会連絡協議会 大分県大分市(アートホテル大分)
- ・10月3日(木) 東北北海道計量大会/連合会総会 青森県青森市(エディングプラザアラスカ)
- ・10月18日(金) 中国四国計量協会連絡協議会 山口県山口市(山ログランドホテル)
- ・10月24日(木) 関東甲信越地区計量大会 千葉県成田市(アートホテル成田)
- ・11月15日(金) 近畿計量大会 大阪府大阪市(シェラトン都ホテル大阪)

(14 ページ 地区計量団体連絡会議一覧(詳細)参照)

(2) 地区計量士協議会への参画

地区で開催される計量士会総会等での課題検討、意見交換及び研修に参加し、当会及び計量士部会の運営に活かしている。本年度は、下記のとおり。

- ① 一般社団法人九州計量士会総会(11月22日(金)) / 熊本県玉名市 参加者 19 名
- ② 東北・北海道計量士協議会(11月22日(金)) / 北海道札幌市 参加者 35 名

(14 ページ 地区計量団体連絡会議一覧(詳細)参照)

4. 5 経済産業省委託事業の実施

4. 5. 1 ISO/TC 12 (量及び単位) 国内委員会 (委員長: 田中 充 日本計量振興協会副会長)

計量における基盤技術分野「量及び単位」の名称、記号、定義及び単位記号を専門的に審議し規格化する ISO/TC 12 委員会の事務局を、昨年度に引き続き行った。

ISO 80000 シリーズ第2版は、全12規格が発行され、今年度以降は、第3版作成に向けた規格見直しの検討が進められており、本年度内での新提案や修正案に対して意見を反映させるための投票が求められる。

なお、当会が2013年4月から引き受けている ISO/TC 12 国内審議団体業務は、運営上の理由により今後の業務遂行が困難となるため、来年度以降の当業務は(一財)日本規格協会に移管される。

4. 5. 2 (量及び単位) JIS 原案作成委員会の活動

本事業は、ISO/TC 12 で審議され発行された国際規格 ISO 80000 シリーを JIS Z 8000 シリーズに制定、改正する事業であるが、本年度は、改訂対象がないため、発行済みの JIS 規格への質問等に対応するため事務局のみ存置している。

なお、ISO/TC 12 国内審議団体業務と同様に、当会が原案作成団体である JIS Z 8000 シリーズの JIS 規格作成委員会の活動は、来年度以降(一財)日本規格協会に移管される。

5. 日本郵政グループ計量管理受託業務の実施

5. 1 業務契約の状況

日本郵便株式会社との契約は、令和5年4月から令和7年3月までの2年間契約中である。

日本郵政株式会社との契約は、旧東京通信病院1箇所のみである。

5. 2 受託業務の内容

(1) 受託期間 令和5年4月1日から令和7年3月31日までの2年間

(2) 主な受託項目

- ・窓口用はかり及び集荷用はかりの定期検査
- ・適正計量管理主任者の指導
- ・分銅校正
- ・計量管理関係事務(書類の作成、申請・届出等)

5. 3 実施方法

(1) 当会は、受託業務の実施にあたり地域計量団体と電磁的記録による協定を結ぶ。

(2) 業務に携わる計量士は、当会 A 会員であって、計量管理講習会を修了し、地域計量団体の長の推薦を得た者に限定している。

5. 4 受託事業の的確な運用について

(1) 業務執行資料集等の改訂

日本郵便株式会社との契約細目の変更等に合わせ、事務書類を現場で使用する上での利便性も考慮して、「計量管理業務実施の手引き」及び資料類を見直し、受託業務の徹底を期している。業務内容に大きな変更点はなかったものの、現場での利用に配慮して継続的に報告書等、各種書類の改訂を行った。

(2) 日本郵政グループ計量管理講習会について

受託事業の的確な運営上、登録計量士の確保と継続的に研修体制を維持することが求められている。このため、本年度からは、コロナ感染症拡大対策として行っていた web 開催は終了し、従来型の会場での開催に戻した。講習会は、東京（5月8日）、高松（5月15日）、大阪（6月3日）の3会場で実施した。全受講者は、143名であった。

(3) 事業に携わる計量士等の状況（括弧内数字は、昨年度）

本年度の登録計量士数は、318名（301）、補助者18名（17）である。新規に登録した計量士13名には、当会発行の「証明書」（顔写真付き身分証明書）を交付した。

(4) 計量管理関係事務

日本郵便株式会社の新規指定手続き2局、住所、郵便局名等の変更届103局、及び廃止届37局の手続きを行った。

5. 5 計量管理業務の実施結果

業務実施結果は、以下に示したとおり、堅実に完了した。

尚、令和6年度は、日本郵政株式会社は対象外である。

項 目	日本郵政		日本郵便		総合計		比 率 (%)
	予定数	実 績	予定数	実 績	予定数	実 績	
I-1 計量器の定期検査	0	0	29,049	29,665	29,049	29,665	102
(1)窓用はかり	-	-	15,765	15,681	15,765	15,681	99
(2)集荷用はかり	-	-	13,284	13,984	13,284	13,984	105
(3)医療用はかり	0	0	-	-	0	0	-
I-2 計量管理に関する事務							
(1)適正計量管理主任の指導	0	0	10,288	10,435	10,288	10,435	101
(2)自主検査用分銅の校正	0	0	36,685	37,844	36,685	37,844	103
(3)本社質量比較器の校正	-	-	6	6	6	6	100.0

6 試験・校正センター

6. 1 試験・校正事業の実施

試験・校正センターの2021年度から2024年度の件数比較を表1に示す。本年度の力計、一軸試験機及び温度計の校正は昨年同様に実施された。

表1 2021年度から2024年度の校正件数

年度 検査項目	試験・校正の件数				
	2021	2022	2023	2024	前年比件数
一軸試験機	1,032	963	962	968	100.1%
力 計	557	388	388	392	101.0%
温 度 計	2,448	2,314	2,350	2,525	107.4%
分 銅 等	500	612	414	472	110.4%
そ の 他	498	602	450	358	79.6%
合 計 件 数	5,035	4,879	4,564	4,715	103.3%

6. 2 試験・校正事業に関連する業務の実施

6. 2. 1 認定事業関連

(1) 技能試験 力区分／力計の外部技能試験に参加

- (ア) 2024 年 8 月 19 日～2024 年 10 月 11 日
- (イ) 仲介器仕様：力変換器 3 台(圧縮力 500 N、100 kN、2 MN) 指示装置 DMP40
- (ウ) 校正点：300 N、400 N、500 N、60 kN、80 kN、100 kN、1 MN、1.5 MN、2 MN
- (エ) プロバイダー：一般社団法人日本試験器工業会 (JTM)
- (オ) 参照機関：(国研) 産業技術総合研究所 計量標準総合センター (NMIJ)
- (カ) 試験・校正センターの校正期間：2024 年 9 月 30 日～2024 年 10 月 4 日
- (キ) 報告書受領：2025 年 2 月

(ク) 試験結果：En 値が 1.0 以下で、満足な結果となった。

- (2) JCSS 登録更新審査の受審
2024 年度は登録更新審査、認定維持審査ともに無し
 - (3) 校正機関を維持するための標準維持業務
 - ① ガラス製温度計の常用参照標準の温度目盛校正 (2 セットを半年ずつずらして依頼校正、一般財団法人日本品質保証機構、株式会社チノー)
 - ② 一軸試験機・・・日計振の力基準機による校正・・・現地校正に使用するロードセル、環状力計約 50 台を期限に合わせて順次校正。(校正周期：2 年)
6. 2. 2 外部活動等に参加
- (1) 第 24 回計力学量標準トレーサビリティ・ワークショップ
2024 年 6 月 7 日に力学量標準トレーサビリティ・ワークショップが大阪オーバルホールにて開催され、日計振の増田部長が「一軸試験機に使用する力計の取扱い方法」について発表を行った。また、受講者として 3 名が参加した。
 - (2) NITE の力分科会
2025 年 3 月に開催された分科会に参画
 - (3) (一社) 日本試験機工業会主催の力標準技術委員会
2024 年 4 月、2024 年 7 月、2024 年 10 月、2024 年 11 月、2025 年 3 月に開催された委員会に参画
 - (4) (一社) 日本試験機工業会主催の力標準トレーサビリティ連絡会議総会
2024 年 7 月に開催された連絡会議に参画

7. 1 顕彰事業

- (1) 日計振 会長表彰 令和 6 年 5 月 29 日
於：ホテルインターコンチネンタル東京ベイ
(15 ページ 第 13 回計量功労者表彰受賞者名簿 参照)
- (2) 令和 6 年度計量記念日関係
(日計振会長推薦者)
 - 1) 経済産業大臣表彰「計量関係功労者受賞者」
 - ・河住 春樹 (一社) 日本計量振興協会 前専務理事
 - ・村松 徳治 (一社) 日本計量振興協会 前常務理事
 - 2) イノベーション・環境局長表彰「計量制度の運営等に貢献した受賞者」(7 名)
 - ・野方 一夫 パナソニック SN エバリュエーションテクノロジー(株)
評価試験サービス部
 - ・畦本 勝也 (株)オーバル システム部課長
 - ・児玉 充弘 (公社)神奈川県計量協会 理事
 - ・平川 慎一 (株)島津製作所 分析計測事業部 分析計測工場 シニアマネージャー
 - ・佐々木正直 (株)チノー 標準技術部長
 - ・平田 善隆 (一社)埼玉県計量協会 理事
 - ・土居 信次 大阪計量士会 常任理事

7. 2 全国計量器販売事業者連合会事務受託事業

- 理事会 第 1 回 令和 6 年 4 月 18 日 於：主婦会館プラザエフ
- 第 2 回 令和 6 年 12 月 18 日 於：日本計量会館
- 総会 令和 6 年 7 月 11 日 於：沖縄ハーバービューホテル

令和6年度の会員の状況

1 会員数

種 別	令和5年度会員数	令和6年度会員数	増 減
第1種会員数	79	77	△2
第2種会員数	90	88	△2
賛助会員	36	34	△2
計	205	199	△6

＊（令和6年度会員数は令和7年3月31日現在）

2 令和6年度の会員入退会の状況

（入会）

第2種正会員

株式会社宝計機製作所

令和6年11月

（退会）

第1種正会員

栃木県計量協会

令和7年3月

栃木県計量協会 計量士部会

〃

第2種正会員

株式会社宇部ケイキ

令和7年3月

リオン株式会社

〃

株式会社渡部計器製作所

〃

令和6年度（第73回）経済産業大臣表彰

【計量関係功労者表彰】

[五十音順、敬称略]

氏 名	所属・役職等
かわずみ はるき 河住 春樹	元 一般社団法人日本計量振興協会 専務理事
きつかわ いさお 吉川 勲	有限会社京都計量 取締役社長
こじま とおる 小島 孔	一般社団法人日本計量機器工業連合会 顧問
たなか きいち 田中 義一	株式会社共和電業 代表取締役社長
むらい まさし 村井 政志	株式会社環境管理センター シニアアドバイザー
むらまつ とくはる 村松 徳治	元 一般社団法人日本計量振興協会 常務理事

<表彰理由>

計量関係事業者、計量関係団体の職務において、多年にわたって計量関係事業の発展、計量器の発達・改善、計量思想の普及又は計量行政の運営等に尽力し、その功績が顕著である。

以上6名

令和6年度（第17回）イノベーション・環境局長表彰
【計量制度運営等貢献者表彰】 [五十音順、敬称略]

氏 名	所属・役職等
あざもと かつや 畦本 勝也	株式会社オーバル システム部 課長
いとう たけし 伊藤 武	国立研究開発法人産業技術総合研究所 計量標準総合センター 工学計測標準研究部門 質量計試験技術グループ 研究グループ長
おの あきひろ 小野 昭紘	西進商事株式会社 顧問
こだま みつひろ 児玉 充弘	公益社団法人神奈川県計量協会 理事
ささき まさなお 佐々木 正直	株式会社チノー 久喜事業所標準技術部 標準技術部長
しげもり あきら 重森 明	一般社団法人日本計量機器工業連合会 事務局長付
すずき としひろ 鈴木 俊宏	元 国立研究開発法人産業技術総合研究所
せいの ゆたか 清野 豊	国立研究開発法人産業技術総合研究所 計量標準総合センター 工学計測標準研究部門 材料強度標準研究グループ テクニカルスタッフ
たかづえ としゆき 高辻 利之	一般社団法人日本計量機器工業連合会 常務理事
どい しんじ 土居 信次	大阪計量士会 常任理事
のぶた ひづ お 野方 一夫	パナソニック SN エバリュエーションテクノロジー株式会社 評価試験サービス部 3課 課長
ひら かつ しみ いち 平川 慎一	株式会社島津製作所 分析計測事業部 分析計測工場 シニアマネージャー
ひら た よし たか 平田 善隆	一般社団法人埼玉県計量協会 理事
やまもと ひろ ちか 山本 浩之	一般社団法人東京都計量協会 理事

<表彰理由> 計量制度の運営等に関して貢献をし、その功績が顕著である。以上14名

令和6年度記念行事受賞作品一覧

1. 計量啓発標語表彰

○応募総数 950点

○最優秀作品賞 1点、優秀作品賞 3点、佳作 13点

・最優秀作品賞

「信頼に 技術で応える 計量管理」 兵庫県 脇本健治

・優秀作品賞

「安全と信頼は 正しい計量の 積み重ね」 大阪府 会社員 太田祐紀

・優秀作品賞

「モノ作り 支える品質 確かな計測」 福井県 会社員 石川正樹

・優秀作品賞

「変わる世に 確かな計量 変わらぬ信頼」 滋賀県 会社員 石畝秀高

2. 何でもはかってみようコンテスト表彰

○応募総数 12点

○最優秀作品賞 1点、優秀作品賞 3点、北森俊行賞 1点、奨励賞 7点

・最優秀作品賞

「金魚のすずしい すみかさがし」

三重県 小学2年生 佐藤紬葵

・優秀作品賞

「お風呂の不思議を測ってみた」

香川県 小学3年生 鎌田小希帆

・優秀作品賞

「よく飛ぶ紙飛行機の羽の大きさの研究」

兵庫県 小学4年生 橋詰佳晟

・優秀作品賞

「乾物を戻したらどのくらい増える？」

大阪府 小学6年生 山本和輝

・北森俊行賞

「防災マップ いのちをまもるため みんなをまもるために はかる」

大阪府 小学3年生 吉川楓馬

令和2年度～令和6年度 5ヵ年全国中小企業向け測定基礎研修会開催状況

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度	
開催都道府県	参加者数	講師数	参加者数	講師数	参加者数	講師数	参加者数	講師数	参加者数	講師数
岩手県	17	2	19	2	23	2	22	2	29	2
宮城県	9	1	19	1	21	1	21	1	39	1
群馬県	16	1	9	1	26	1	18	1	31	2
埼玉県	31	4	29	5	27	6	39	3	53	6
富山県	25	1	3	1	0	0	0	0	0	0
福井県	0	0	0	0	10	1	4	1	0	0
岐阜県	0	0	0	0	0	0	26	2	0	0
愛知県	13	5	34	5	28	5	24	5	17	5
三重県	0	0	0	0	10	3	19	3	0	0
京都府	29	6	14	6	1	3	9	2	2	2
参加者数及び講師数	140	20	127	21	146	22	182	20	171	18
開催府県数	7 府県		7 府県		8 府県		9 府県		6 府県	

地区計量団体連絡会議

日時	令和6年7月4日(木)	令和6年7月18日(木)	令和6年10月3日(木)	令和6年10月18日(金)	令和6年10月24日(木)	令和6年11月15日(金)	令和6年11月22日(金)	令和6年11月22日(金)
開催団体	中部7県計量協議会	九州計量協会連絡協議会	東北北海道計量大会/連合会 総会	中国四国計量協会連絡協議会	関東甲信越地区計量大会	近畿計量大会	九州計量士会定時総会	東北・北海道計量士協議会
開催場所	三重県四日市 (プラトンホテル四日市)	大分県大分市 (アートホテル大分)	青森県青森市 (エディンバラプラザアラスカ)	山口県山口市 (山ログランドホテル)	千葉県成田市 (アートホテル成田)	大阪府大阪市 (シェラトン都ホテル大阪)	熊本県玉名市 (尚玄山荘本館)	北海道札幌市 (ANAクラウンプラ)
参加人数	115名	31名	107名	81名	168名	303名	18名	35名
大会記念事業			寄贈品：「デジタルペビ スケール」3台					
表彰	計量功労者表彰 14名		計量功労者表彰 6氏 2社	計量関係功労者表彰 8名	感謝状 10名	会長感謝状 6名		
議題	1(1)自動はかり検定と計量 協会の関わりについて 1(2)自動はかり(自動捕捉 式はかり)の検定開始に伴 う各県協会の対応について 2.収入証紙のキャッシュレ ス化に伴う事務処理等につ いて 3「次回開催地について」	1.令和5年度九州計量協会連 絡協議会収支決算書につ いて 2.令和6年度九州計量協会連 絡協議会収支予算(案)につ いて	1.既使用「自動捕捉式はか り」の山谷(凸凹)対策に ついて 2.連合会会則の改正につ いて 3.連合会総会の次期開催地 について	(1)協会役員の引受(なり手 不足)について (2)次期開催地について	1.会務・会計報告及び会計監 査報告 2.事業計画及び予算書		1.2023年度事業報告、同収 支決算報告及び監査報告、 また役員改選 2.2024年度事業計画、同収 支予算について報告	1.指定検定機関との連携・ 協力について(情報交換) 2.次回の開催県について
提案議題		1 協会の各種事業に携わる計 量士の育成・確保につ いて 2 新たに使用する自動捕捉式 はかりについて指定検定機 関が地計協を活用した事例 又は情報等 3 郵政管理業務の実施経費の 算定見積の詳細の開示がな い。見直してほしい		130年ぶりとなるキログラム の定義改定と新しい1キログ ラムの作り方	伊能忠敬の測量術	第1部テーマI 知と汗と涙の近大流コミュ ニケーション戦略 第2部テーマI 空飛ぶクルマの社会実装に 向けた取組と今後の展望 第2部テーマII ビジネスエキスパートのた めの空飛ぶクルマ	1.指定検定機関としての取り 組み及び燃料系計量器にお ける計量士の役割	
記念講演	～高校生レストランの仕掛 人が語る～							
翌日	見学会				見学会、朝晩ゴルフ			
次年度の開催県	富山県	熊本県	山形県	愛媛県	新潟県	和歌山県	長崎県	青森県

一般社団法人日本計量振興協会
第13回計量功労者表彰受賞者名簿
(令和6年5月29日)

○第1種正会員(団体)関係

No.	表彰者氏名	年齢	推薦(団体)会員名
1	大高 廣志	74	一般社団法人山形県計量協会
2	稲田 京子	64	一般社団法人茨城県計量協会
3	川島 誠	74	一般社団法人埼玉県計量協会
4	大濱 友章	51	東京計量士会
5	熊田 泰之	55	東京計量士会
6	星 久美子	56	公益社団法人神奈川県計量協会
7	菅沼 隆夫	61	神奈川県計量士会
8	大島 正男	78	一般社団法人新潟県計量協会
9	新貝 和雄	77	長野県計量協会
10	河合 康典	53	岐阜県計量協会
11	小屋松 隆一	58	一般社団法人愛知県計量連合会計量士部会
12	太田 悟	67	三重県計量協会
13	朝倉 建郎	65	石川県計量協会
14	廣岡 龍男	71	大阪計量士会
15	小野 泰敏	68	大阪計量士会
16	神垣 誠司	68	広島県計量士会
17	弘中 憲明	75	一般社団法人山口県計量協会
18	村上 宏	80	香川県計量協会
19	永池 弘一	65	一般社団法人長崎県計量協会
20	藤本 剛	59	一般社団法人熊本県計量協会
21	中山 裕太	40	大分県計量協会

○第2種正会員(法人)関係

No.	表彰者氏名	年齢	推薦(団体)会員名
1	高田 和子	58	旭計器工業株式会社
2	有馬 裕介	46	鎌長製衡株式会社
3	西田 一昌	53	讃光工業株式会社
4	鈴木 誠一	49	新光電子株式会社
5	佐藤 泰司	55	株式会社田中衡機工業所
6	小泉 聡美	56	株式会社タニタ
7	池田 慎一	58	株式会社チノー
8	今井 敦	53	長野計器株式会社
9	宗像 智	57	日東インダ株式会社
10	山田 敏幸	56	日本圧力計温度計工業会
11	東 文浩	39	日本硝子計量器工業協同組合